

2026年3月期 中間決算のお知らせ

東京海上日動あんしん生命保険株式会社(社長 浅野 收二)の2026年3月期中間決算(2025年4月1日～2025年9月30日)の業績をお知らせします。

1. 契約の状況

新契約年換算保険料は、189億円(前年同期比85.3%)となりました。
保有契約年換算保険料および保有契約件数は、7,512億円(前年度末比98.4%)、630万件(同99.6%)となりました。

2. 損益の状況

基礎利益は、前年同期比74億円増益の267億円となりました。
中間純利益は、同177億円増益の313億円となりました。

3. 総資産の状況

総資産は、前年度末から686億円減少し、7兆7,697億円(前年度末比99.1%)となりました。

4. 健全性の指標

保険金等の支払能力を示すソルベンシー・マージン比率は、882.0%と引き続き高い水準を確保しており、優れた健全性を示しています。

5. その他、トピックス

中間純利益は、国内金利上昇に伴う金融派生商品費用の減少、保有契約から生じる利益の増加等により増益となりました。

【主要業績】

(単位:億円、千件、%)

	2024年度 中間期	2025年度 中間期	前年同期比
新契約年換算保険料(※)	222	189	85.3
新契約件数(※)	150	127	85.0
保険料等収入	3,756	3,812	101.5
基礎利益	192	267	138.8
中間純利益	135	313	230.9

(単位:億円、千件、%)

	2024年度末	2025年度 中間期末	前年度末比
保有契約年換算保険料(※)	7,635	7,512	98.4
保有契約件数(※)	6,331	6,303	99.6
保有契約高(※)	289,247	284,009	98.2
総資産	78,383	77,697	99.1

(※)本項目については、個人保険・個人年金保険合計の数値です。

<当社の格付(2025年11月19日現在)>
S&P 保険財務力格付 A+

2026年3月期 中間決算のお知らせ 目次

1. 主要業績	P 1
保有契約高及び新契約高		
年換算保険料		
2. 中間貸借対照表	P 2
3. 中間損益計算書	P 3
経常利益等の明細（基礎利益）		
4. 中間株主資本等変動計算書	P 5
5. 資産運用関係（一般勘定）	P 1 4
利息及び配当金等収入		
有価証券売却損益・評価損		
有価証券の時価情報（売買目的有価証券以外の有価証券）		
デリバティブ取引の時価情報		
6. ソルベンシー・マージン比率	P 1 7
（参考）実質資産負債差額		
7. 特別勘定の状況	P 1 8
8. 保険会社及びその子会社等の状況	P 1 8

1. 主要業績

保有契約高及び新契約高

・保有契約高

区分	前事業年度末 (2025年3月31日)				当中間会計期間末 (2025年9月30日)				(単位:千件、億円、%)		
	件数		金額		件数		金額		前年度末比	前年度末比	
	前年度末比	前年度末比	前年度末比	前年度末比	前年度末比	前年度末比	前年度末比	前年度末比			
個人保険	5,916	100.1	272,252	97.7	5,898	99.7	267,492	98.3			
個人年金保険	414	96.1	16,994	94.6	405	97.8	16,517	97.2			
団体保険	-	-	16,177	97.2	-	-	16,059	99.3			
団体年金保険	-	-	26	97.7	-	-	26	98.8			

(注) 1. 個人年金保険については、年金支払開始前契約の年金支払開始時における年金原資と年金支払開始後契約の責任準備金を合計したものです。

2. 団体年金保険については、責任準備金の金額です。

・新契約高

区分	前中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)				当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)				(単位:千件、億円、%)		
	件数		金額		件数		金額		前年同期比	新契約	転換による純増加
	前年同期比	前年同期比	前年同期比	前年同期比	前年同期比	前年同期比	前年同期比	前年同期比			
個人保険	150	82.6	8,710	92.5	127	85.0	7,163	82.2	7,163	-	-
個人年金保険	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
団体保険	-	-	42	114.7	-	-	411	972.6	411	-	-
団体年金保険	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

年換算保険料

・保有契約

区分	前事業年度末 (2025年3月31日)			当中間会計期間末 (2025年9月30日)			(単位:億円、%)		
	前年度末比		前年度末比	前年度末比		前年度末比	前年度末比		前年度末比
個人保険		6,615	98.2		6,515	98.5			
個人年金保険		1,020	96.1		997	97.7			
合 計		7,635	97.9		7,512	98.4			
うち医療保障・生前給付保障等		2,487	101.4		2,490	100.1			
うち医療・がん		2,010	100.3		2,007	99.9			

・新契約

区分	前中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)			当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)			(単位:億円、%)		
	前年同期比		前年同期比	前年同期比		前年同期比	前年同期比		前年同期比
個人保険		222	93.1		189	85.3			
個人年金保険		-	-		-	-			
合 計		222	93.1		189	85.3			
うち医療保障・生前給付保障等		83	82.4		69	83.0			
うち医療・がん		53	77.7		45	84.3			

(注) 1. 年換算保険料とは、各契約の全期間の払込保険料総額（一時払契約については一時払保険料）を保険期間等で除して1年あたりの保険料に換算した金額です。

2. 医療保障・生前給付保障等とは、医療保障給付（入院給付、手術給付等）、生前給付保障給付（特定疾病給付、介護給付等）、保険料払込免除給付（障害を事由とするものは除く。特定疾病罹患、介護等を事由とするものを含む）等に該当する保障です。

2. 中間貸借対照表

(単位：百万円)

期 別 科 目	前事業年度末 (2025年3月31日)		当中間会計期間末 (2025年9月30日)		比較増減
	金額	構成比	金額	構成比	
(資産の部)		%		%	
現金及び預貯金	233,608	2.98	88,579	1.14	△ 145,029
買入金銭債権	5,331	0.07	751,936	9.68	746,605
有価証券	7,264,554	92.68	6,534,575	84.10	△ 729,978
国債	5,838,082		5,041,754		△ 796,327
地方債	5,609		5,609		△ 0
社債	526,098		511,858		△ 14,240
株式	130		122		△ 7
外國証券	556,332		561,301		4,969
その他の証券	338,300		413,928		75,628
貸付	99,123	1.26	100,207	1.29	1,084
保険約款貸付	99,123		100,207		1,084
有形固定資産	1,333	0.02	1,414	0.02	80
無形固定資産	25,285	0.32	28,473	0.37	3,187
代理店貸	212	0.00	208	0.00	△ 3
再保険	41,321	0.53	50,483	0.65	9,161
その他の資産	118,774	1.52	143,184	1.84	24,410
繰延税金資産	50,045	0.64	71,918	0.93	21,873
貸倒引当金	△ 1,202	△ 0.02	△ 1,272	△ 0.02	△ 70
資産の部合計	7,838,388	100.00	7,769,710	100.00	△ 68,678
(負債の部)					
保険契約準備金	7,604,382	97.01	7,459,143	96.00	△ 145,239
支払準備金	104,135		107,430		3,295
責任準備金	7,492,653		7,314,547		△ 178,106
契約者配当準備金	7,594		37,165		29,571
代理店借	5,375	0.07	4,120	0.05	△ 1,254
再保険借	2,460	0.03	11,100	0.14	8,640
その他の負債	40,008	0.51	106,272	1.37	66,263
未払法人税等	38		20,153		20,115
リース債務	0		0		△ 0
その他の負債	39,968		86,118		46,149
退職給付引当金	9,451	0.12	9,446	0.12	△ 5
特別法上の準備金	24,153	0.31	26,034	0.34	1,880
価格変動準備金	24,153		26,034		1,880
負債の部合計	7,685,831	98.05	7,616,117	98.02	△ 69,714
(純資産の部)					
資本金	55,000	0.70	55,000	0.71	-
資本剰余金	41,860	0.53	41,860	0.54	-
資本準備金	41,860		41,860		-
利益剰余金	91,906	1.17	123,222	1.59	31,315
利益準備金	13,140		13,140		-
その他利益剰余金	78,766		110,082		31,315
繰越利益剰余金	78,766		110,082		31,315
株主資本合計	188,766	2.41	220,082	2.83	31,315
その他有価証券評価差額金	△ 3,354	△ 0.04	△ 36,078	△ 0.46	△ 32,724
繰延ヘッジ損益	△ 32,856	△ 0.42	△ 30,411	△ 0.39	2,445
評価・換算差額等合計	△ 36,210	△ 0.46	△ 66,489	△ 0.86	△ 30,279
純資産の部合計	152,556	1.95	153,592	1.98	1,036
負債及び純資産の部合計	7,838,388	100.00	7,769,710	100.00	△ 68,678

3. 中間損益計算書

(単位：百万円)

科 目	期 別	前中間会計期間	当中間会計期間	比較増減
		(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)	
		金額	金額	
経 常 収 益		621,532	714,851	93,318
保 険 料 等 収 入		375,668	381,265	5,597
(うち保険料)	(うち保険料)	(366,180)	(352,453)	(△ 13,727)
資 産 運 用 収 益		81,775	152,347	70,571
(うち利息及び配当金等収入)	(うち利息及び配当金等収入)	(55,678)	(42,664)	(△ 13,013)
(うち有価証券売却益)	(うち有価証券売却益)	(19,318)	(44,140)	(24,822)
(うち金融派生商品収益)	(うち金融派生商品収益)	(-)	(1,854)	(1,854)
(うち為替差益)	(うち為替差益)	(-)	(5,890)	(5,890)
(うち特別勘定資産運用益)	(うち特別勘定資産運用益)	(6,744)	(57,771)	(51,026)
そ の 他 経 常 収 益		164,089	181,238	17,149
(うち責任準備金戻入額)	(うち責任準備金戻入額)	(161,635)	(178,106)	(16,470)
経 常 費 用		607,473	636,930	29,457
保 険 金 等 支 払 金		462,554	488,364	25,809
保 険 金	保 険 金	31,184	31,518	333
年 金	年 金	21,693	22,345	652
給 付 金	給 付 金	32,246	34,193	1,947
解 約 戻 金	解 約 戻 金	175,653	190,791	15,137
そ の 他 戻 金	そ の 他 戻 金	3,958	4,147	188
再 保 険 料	再 保 険 料	197,818	205,368	7,549
責 任 準 備 金 等 繰 入 額		4,315	3,296	△ 1,018
支 払 備 金 繰 入 額		4,314	3,295	△ 1,018
契 約 者 配 当 金 積 立 利 息 繰 入 額		1	1	△ 0
資 産 運 用 費 用		72,672	77,659	4,986
(うち支払利息)	(うち支払利息)	(189)	(23)	(△ 165)
(うち有価証券売却損)	(うち有価証券売却損)	(54,143)	(77,564)	(23,420)
(うち金融派生商品費用)	(うち金融派生商品費用)	(17,535)	(-)	(△ 17,535)
(うち為替差損)	(うち為替差損)	(743)	(-)	(△ 743)
事 業 費		59,209	55,610	△ 3,599
そ の 他 経 常 費 用		8,720	12,000	3,279
経 常 利 益		14,059	77,920	63,861
特 別 損 失		1,469	2,494	1,025
契 約 者 配 当 準 備 金 繰 入 (△ 戻 入) 額		△ 5,293	31,148	36,442
税 引 前 中 間 純 利 益		17,883	44,277	26,393
法 人 税 及 び 住 民 税		2,688	21,891	19,202
法 人 税 等 調 整 額		1,634	△ 8,929	△ 10,563
法 人 税 等 合 計		4,322	12,962	8,639
中 間 純 利 益		13,560	31,315	17,754

経常利益等の明細（基礎利益）

(単位：百万円)

		前中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)	比較増減
基礎利益	A	19,288	26,763	7,474
キャピタル収益		36,058	64,296	28,238
有価証券売却益		19,318	44,140	24,822
金融派生商品収益		-	3,198	3,198
為替差益		-	5,890	5,890
その他キャピタル収益		16,739	11,067	△ 5,671
キャピタル費用		72,435	77,564	5,129
有価証券売却損		54,143	77,564	23,420
金融派生商品費用		17,548	-	△ 17,548
為替差損		743	-	△ 743
キャピタル損益	B	△ 36,377	△ 13,268	23,109
キャピタル損益含み基礎利益	A+B	△ 17,088	13,495	30,583
臨時収益		31,325	64,474	33,148
その他臨時収益		31,325	64,474	33,148
臨時費用		178	49	△ 129
危険準備金繰入額		176	48	△ 128
個別貸倒引当金繰入額		1	0	△ 0
臨時損益	C	31,147	64,425	33,277
経常利益	A+B+C	14,059	77,920	63,861

(参考) その他項目の内訳

(単位：百万円)

		前中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)	比較増減
基礎利益		△ 48,053	△ 76,886	△ 28,832
金利スワップおよび通貨スワップに係る受取・支払利息		12	△ 1,343	△ 1,356
外貨建て保険契約に係る市場為替レート変動の影響額		△ 405	△ 31	373
マーケット・ヴァリュー・アジャストメントに係る解約返戻金額変動の影響額		△ 6	△ 1	5
為替に係るヘッジコスト		△ 16,327	△ 11,035	5,292
既契約の出再に伴う損益		△ 31,325	△ 64,474	△ 33,148
その他キャピタル収益		16,739	11,067	△ 5,671
外貨建て保険契約に係る市場為替レート変動の影響額		405	31	△ 373
マーケット・ヴァリュー・アジャストメントに係る解約返戻金額変動の影響額		6	1	△ 5
為替に係るヘッジコスト		16,327	11,035	△ 5,292
その他臨時収益		31,325	64,474	33,148
既契約の出再に伴う損益		31,325	64,474	33,148

4. 中間株主資本等変動計算書

前中間会計期間（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）

(単位：百万円)

資本金	株主資本				評価・換算差額等		純資産合計	
	資本剰余金	利益剰余金	その他 利益剰余金	株主資本合計	その他の 有価証券損益	繰延ヘッジ 損益		
	資本準備金	利益準備金			評価差額金			
当期首残高	55,000	41,860	13,140	56,728	166,728	△ 2,771	△ 37,754	126,202
当中間期変動額								
剰余金の配当				△ 26,200	△ 26,200			△ 26,200
中間純利益				13,560	13,560			13,560
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）						△ 18,686	7,862	△ 10,823
当中間期変動額合計	-	-	-	△ 12,639	△ 12,639	△ 18,686	7,862	△ 23,462
当中間期末残高	55,000	41,860	13,140	44,089	154,089	△ 21,458	△ 29,891	102,739

当中間会計期間（自 2025年4月1日 至 2025年9月30日）

(単位：百万円)

資本金	株主資本				評価・換算差額等		純資産合計	
	資本剰余金	利益剰余金	その他 利益剰余金	株主資本合計	その他の 有価証券損益	繰延ヘッジ 損益		
	資本準備金	利益準備金			評価差額金			
当期首残高	55,000	41,860	13,140	78,766	188,766	△ 3,354	△ 32,856	152,556
当中間期変動額								
剰余金の配当					-			-
中間純利益				31,315	31,315			31,315
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）						△ 32,724	2,445	△ 30,279
当中間期変動額合計	-	-	-	31,315	31,315	△ 32,724	2,445	1,036
当中間期末残高	55,000	41,860	13,140	110,082	220,082	△ 36,078	△ 30,411	153,592

(中間貸借対照表の注記)

1. 会計方針に関する事項

- (1) 有価証券の評価基準および評価方法は次のとおりとしています。
- ① 売買目的有価証券の評価は時価法によっています。また、売却原価は移動平均法に基づいて算定しています。
 - ② 満期保有目的の債券の評価は移動平均法に基づく償却原価法（定額法）によっています。
 - ③ 業種別監査委員会報告第21号「保険業における「責任準備金対応債券」に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」（平成12年11月16日 日本公認会計士協会）に基づく責任準備金対応債券の評価は移動平均法に基づく償却原価法（定額法）によっています。
- なお、責任準備金対応債券に係る中間貸借対照表計上額は1,956,958百万円、時価は1,187,893百万円です。
- また、責任準備金対応債券に関するリスク管理方針の概要は次のとおりです。
- 資産・負債の金利リスクの変動を適切に管理するために「個人保険（無配当・利差回拵）の責任準備金の一部」を小区分として設定し、当該小区分に係る責任準備金のデュレーションと責任準備金対応債券のデュレーションを一定幅の中で対応させる運用方針をとっています。
- ④ 子会社株式および関連会社株式の評価は移動平均法に基づく原価法によっています。
 - ⑤ その他有価証券の評価は、市場価格のない株式等を除き、中間会計期間末日の市場価格等に基づく時価法によっています。
- なお、評価差額は全部純資産直入法により処理し、また、売却原価は移動平均法に基づいて算定しています。
- ⑥ その他有価証券のうち市場価格のない株式等の評価は移動平均法に基づく原価法によっています。
- (2) デリバティブ取引の評価は時価法によっています。
- (3) 有形固定資産の減価償却は次の方法によっています。
- ① リース資産以外
定額法を採用しています。
 - ② リース資産
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産について、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しています。
- (4) 無形固定資産のうちソフトウェアの減価償却は、利用可能期間に基づく定額法を採用しています。
- (5) 外貨建資産等の本邦通貨への換算は外貨建取引等会計処理基準に準拠して行っています。
- (6) 貸倒引当金は資産の自己査定基準および償却・引当基準に則り、次のとおり計上しています。
- 破産、特別清算、手形交換所における取引停止処分等、法的・形式的に経営破綻の事実が発生している債務者に対する債権および実質的に経営破綻に陥っている債務者に対する債権については、債権額から担保の処分可能見込額および保証による回収が可能と認められる額等を控除し、その残額を計上しています。また、現状、経営破綻の状況にはありませんが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に対する債権については、債権額から担保の処分可能見込額および保証による回収が可能と認められる額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を計上しています。上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率を債権額に乘じた額を計上しています。
- また、すべての債権は資産の自己査定基準に基づき、関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて引当を行っています。
- (7) 退職給付引当金は従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しています。
- 退職給付見込額および退職給付費用の処理方法は次のとおりです。
- | | |
|----------------|------------------|
| 退職給付見込額の期間帰属方法 | 給付算定式基準を採用しています。 |
| 数理計算上の差異の処理年数 | 5年 |

- (8) 価格変動準備金は保険業法第115条の規定に基づき算出した額を計上しています。
- (9) ヘッジ会計の方法は次のとおりです。
外貨建資産に係る将来の為替相場の変動リスクを軽減する目的で実施している為替予約取引の一部については、繰延ヘッジ処理または時価ヘッジ処理、通貨スワップ取引の一部については、振当処理を行っています。なお、ヘッジ手段とヘッジ対象の重要な条件が同一であり、ヘッジに高い有効性があるため、ヘッジ有効性の評価を省略しています。
- (10) 消費税および地方消費税の会計処理は税抜方式によっています。ただし、事業費は税込方式によっています。なお、資産に係る控除対象外消費税等のうち、税法に定める繰延消費税等は前払費用に計上のうえ5年間で均等償却し、繰延消費税等以外のものは当中間会計期間に費用処理しています。
- (11) 責任準備金は、保険契約に基づく将来の債務の履行に備えるため、保険業法第116条の規定に基づき積み立てており、未経過保険料、保険料積立金、危険準備金により構成されています。
なお、保険契約が再保険に付されている場合は、再保険が付された部分に対する責任準備金は、保険業法施行規則第71条第1項に基づき、原則として積み立てていません。
未経過保険料は、保険契約に定めた保険期間のうち、決算期においてまだ経過していない期間に対応する責任に相当する金額を積み立てています。
保険料積立金は、次的方式により計算しています。
① 標準責任準備金の対象契約については、金融庁長官が定める方式（平成8年大蔵省告示第48号）
② 標準責任準備金の対象とならない契約については、平準純保険料式
なお、1999年5月2日以後2003年2月1日までに締結された5年ごと利差配当付個人年金保険（一時払）契約について、保険業法施行規則第69条第5項の規定に基づき、責任準備金22百万円を追加して積み立てています。
危険準備金は、保険契約に基づく債務を確実に履行するため、将来発生が見込まれる危険に備えて、保険業法にしたがって積み立てています。
- (12) 支払備金は、保険業法第117条の規定に基づき、保険契約に基づいて支払義務が発生した、または発生したと認められる保険金、返戻金およびその他の給付金のうち、まだ支払っていない金額を積み立てています。
なお、保険契約が再保険に付されている場合、再保険が付された部分に相当する支払備金は、保険業法施行規則第71条第1項に基づき、原則として積み立てていません。既発生未報告支払備金（まだ支払事由の発生の報告を受けていないが保険契約に規定する支払事由が既に発生したと認める保険金等をいう。以下同じ。）については、新型コロナウイルス感染症と診断され、宿泊施設または自宅にて医師等の管理下で療養をされた場合（以下、「みなし入院」という。）等に入院給付金等を支払う特別取扱を2023年5月8日以降終了したことにより、平成10年大蔵省告示第234号（以下、「IBNR告示」という。）第1条第1項本則に基づく計算では適切な水準の額を算出することができないことから、IBNR告示第1条第1項ただし書の規定に基づき、以下の方法により算出した額を計上しています。
- IBNR告示第1条第1項本則に掲げる全ての事業年度の既発生未報告支払備金積立所要額および保険金等の支払額から、みなし入院に係る額を除外した上で、IBNR告示第1条第1項本則と同様の方法により算出しています。

2. 主な金融資産および金融負債に係る中間貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額は次のとおりです。

(単位：百万円)

	中間貸借対照表 計 上 額	時 価	差 額
買入金銭債権	751,936	751,936	—
有価証券（*1）	6,393,430	4,903,404	△ 1,490,026
売買目的有価証券	422,065	442,065	—
満期保有目的の債券（*2）	2,890,809	2,169,847	△ 720,961
責任準備金対応債券	1,956,958	1,187,893	△ 769,064
その他有価証券	1,123,597	1,123,597	—
貸付金	100,207	105,246	5,038
資産計	7,245,575	5,760,587	△ 1,484,987
デリバティブ取引（*3）			
ヘッジ会計が適用されていないもの	26,404	26,404	—
ヘッジ会計が適用されているもの	(12,715)	(12,715)	—
デリバティブ取引計	13,688	13,688	—

現金及び預貯金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しています。

（*1）非上場株式等の市場価格のない株式等については、企業会計基準適用指針第19号「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（2020年3月31日 企業会計基準委員会）第5項に従い、時価開示の対象としていません。当該非上場株式等の中間貸借対照表計上額は113,245百万円です。

また、組合出資金等については、企業会計基準適用指針第31号「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（2021年6月17日 企業会計基準委員会）第24-16項を適用し、時価開示の対象としていません。当該組合出資金等の中間貸借対照表計上額は27,899百万円です。

（*2）通貨スワップ取引の振当処理を行っているものについては、ヘッジ対象の有価証券（満期保有目的の債券）と一体として処理しているため、その時価は当該有価証券の時価に含めています。

（*3）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（）で表示しています。

3. 主な金融商品の時価の内訳等に関する事項

金融商品の時価は、時価の算定に用いたインプットの観察可能性および重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しています。

レベル1の時価：同一の資産または負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接または間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しています。

(1) 時価をもって中間貸借対照表計上額とする金融資産および金融負債

(単位：百万円)

	中間貸借対照表計上額			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
買入金銭債権	—	751, 936	—	751, 936
有価証券				
売買目的有価証券	—	422, 065	—	422, 065
その他有価証券	665, 013	458, 584	—	1, 123, 597
デリバティブ資産	—	63, 838	34	63, 872
資産計	665, 013	1, 696, 425	34	2, 361, 473
デリバティブ負債	—	50, 184	—	50, 184
負債計	—	50, 184	—	50, 184

(2) 時価をもって中間貸借対照表計上額としない金融資産および金融負債

(単位：百万円)

	時価				中間貸借 対照表計上額	差額
	レベル1	レベル2	レベル3	合計		
有価証券						
満期保有目的の債券	1, 723, 717	446, 130	—	2, 169, 847	2, 890, 809	△ 720, 961
責任準備金対応債券	814, 756	373, 136	—	1, 187, 893	1, 956, 958	△ 769, 064
貸付金	—	—	105, 246	105, 246	100, 207	5, 038
資産計	2, 538, 474	819, 267	105, 246	3, 462, 987	4, 947, 974	△ 1, 484, 987

(注1) 時価の算定に用いた評価技法およびインプットの説明

買入金銭債権

買入金銭債権については、将来キャッシュ・フローの現在価値技法等の評価技法を用いて算定された価格を情報ベンダー等から入手し、当該価格を時価としています。これらの評価技法には、イールドカーブ、クレジットスプレッド等の観察可能なインプットを主に使用しているため、レベル2の時価に分類しています。

有価証券

有価証券については、活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類しています。公表された相場価格を用いていたとしても市場が活発でない場合にはレベル2の時価に分類しています。

相場価格のないものは、主に将来キャッシュ・フローの現在価値技法等の評価技法を用いて算定された価格を情報ベンダー等から入手し、当該価格を時価としています。これらの評価技法には、イールドカーブ、クレジットスプレッド等のインプットを使用しています。観察できないインプットを使用していないまたはその影響が重要でない場合はレベル2、重要な観察できないインプットを使用している場合はレベル3の時価に分類しています。

なお、市場における取引価額が存在しない投資信託については、解約等に関して市場参加者からリスクの対価を求められるほどの重要な制限がない場合には、基準価額等をもって時価としており、レベル2の時価に分類しています。

貸付金

保険約款貸付は、過去の実績に基づく返済率から生成した将来キャッシュ・フローを、リスク・フリー・レートで割り引いて算出しており、重要な観察できないインプットを使用しているためレベル3の時

価に分類しています。

デリバティブ取引

デリバティブ取引のうち取引所取引は、取引所等における最終の価格をもって時価としています。店頭取引は、情報ベンダー等から入手したバシュリエモデル等で算定された価格または将来キャッシュ・フローの現在価値技法等の評価技法を利用して算定された価格をもって時価としています。これらの評価技法には、金利、為替レート、株価、ボラティリティ等のインプットを用いています。

取引所取引はレベル1、観察できないインプットを使用していないまたはその影響が重要でない場合はレベル2、重要な観察できないインプットを使用している場合はレベル3の時価に分類しています。

(注2) 時価をもって中間貸借対照表計上額とする金融資産および金融負債のうちレベル3の時価に関する情報

① 重要な観察できないインプットに関する定量的情報

区分	評価技法	重要な観察できないインプット	インプットの範囲
デリバティブ取引 金利スワップション	バシュリエモデル算式	インプライド・ボラティリティ	—

金利スワップションの時価については、情報ベンダーから入手した価格を調整せず使用しているため、インプットの範囲の注記を省略しています。

② 期首残高から中間会計期間末残高への調整表、当中間会計期間の損益に認識した評価損益

(単位：百万円)

	期首 残高	レベル3 の時価へ の振替 (*1)	レベル3 の時価か らの振替 (*1)	当中間会 計期間の 損益 (*2)	購入、売 却、発行 および決 済の純額	中間会計 期間末 残高	当中間会計期間 損益に計上した 額のうち中間貸 借対照表におい て保有する金融 資産および金融 負債の評価損益 (*2)
デリバティブ取引 (*3) 金利スワップション	26	—	—	(18)	25	34	(7)

(*1) レベル間の振替は期首時点で認識することとしています。

(*2) 中間損益計算書の「資産運用費用」に含まれています。

(*3) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務および利益・損失は純額で表示しており、合計で正味の債務・損失となる項目については、() で示しています。

③ 時価評価のプロセスの説明

当社は取引部門から独立した部門において時価の算定に関する方針、手続および時価評価モデルの使用に係る手続を定めています。算定された時価およびレベルの分類については、時価の算定に用いられた評価技法およびインプットの妥当性を検証しています。

時価の算定に当たっては、個々の資産の性質、特性およびリスクを最も適切に反映できる評価モデルを用いています。また、第三者から入手した相場価格を利用する場合においても、利用されている評価技法およびインプットの確認や類似の金融商品の時価との比較等の適切な方法により価格の妥当性を検証しています。

④ 重要な観察できないインプットを変化させた場合の時価に対する影響に関する説明

インプライド・ボラティリティ

インプライド・ボラティリティ（以下、「ボラティリティ」という。）とは、特定の期間における金融指標の予想変動率を表す尺度です。買建ポジションのオプション商品は、ボラティリティの上昇により利益を得ることができます。なお、ボラティリティが低下した場合でも損失は支払ったプレミアムに限定されます。

4. 消費貸借契約により貸し付けている有価証券の中間貸借対照表計上額は 611,820 百万円です。
5. 債権のうち、保険業法施行規則第 59 条の 2 第 1 項第 5 号ロによる破産更生債権及びこれらに準ずる債権額は 0 百万円であり、危険債権、三月以上延滞債権および貸付条件緩和債権はありません。
6. 保険業法第 118 条に規定する特別勘定の資産の額は 433,487 百万円です。なお、負債の額も同額です。
7. 契約者配当準備金の異動状況は次のとおりです。

当事業年度期首現在高	7,594 百万円
当中間会計期間契約者配当金支払額	1,578 百万円
利息による増加等	1 百万円
契約者配当準備金繰入額	31,148 百万円
当中間会計期間末現在高	37,165 百万円
8. 関係会社株式の額は 113,183 百万円です。
9. 担保に供されている資産は有価証券 17,447 百万円です。
10. 保険業法施行規則第 73 条第 3 項において準用する同規則第 71 条第 1 項に規定する再保険を付した部分に相当する支払備金（以下、「出再支払備金」という。）の額は 1,031 百万円、同規則第 71 条第 1 項に規定する再保険を付した部分に相当する責任準備金（以下、「出再責任準備金」という。）の額は 968,556 百万円です。
11. 平成 8 年大蔵省告示第 50 号第 1 条第 5 項に規定する再保険契約に係る未償却出再手数料の中間会計期間末残高は、1,372 百万円です。
12. 以下の会社の債務を保証しており、当中間会計期間末における保証残高は次のとおりです。
トウキョウ・マリン・アールエスエル・リー・ピーアイシー・リミテッド 112,897 百万円
13. デリバティブ取引に関連して担保として受け入れている有価証券のうち、売却または再担保という方法で自由に処分できる権利を有するものは 14,290 百万円（時価）であり、すべて自己保有しています。
14. 金額は記載単位未満を切り捨てて表示しています。

(中間損益計算書の注記)

1. 会計方針に関する事項は、次のとおりです。
 - (1) 保険料については、原則として、当中間会計期間に保険契約者から収入した保険料を計上しています。再保険収入については、再保険契約に基づき、再保険者から回収した保険金等を計上しています。
 - (2) 保険金・年金・給付金・解約返戻金については、原則として、約款に基づき支払われた金額を計上しています。その他返戻金については、保険金、年金、給付金、解約返戻金以外の保険契約関係支払額を計上しています。再保険料については、再保険契約に基づき、再保険者へ支払う保険料等を計上しています。
2. 有価証券売却益の内訳は国債等債券 44,135 百万円、株式 5 百万円です。
3. 有価証券売却損の内訳は国債等債券 77,556 百万円、株式 0 百万円、外国証券 8 百万円です。
4. 支払備金繰入額の計算上足し上げられた出再支払備金戻入額の金額は 0 百万円、責任準備金戻入額の計算上足し上げられた出再責任準備金繰入額の金額は 251,251 百万円です。
5. 利息及び配当金等収入の内訳は次のとおりです。

預貯金利息	15 百万円
有価証券利息・配当金	39,158 百万円
貸付金利息	1,467 百万円
その他利息配当金	2,023 百万円
計	42,664 百万円
6. 1 株当たりの中間純利益は 19,572 円 7 銭です。
7. 再保険収入には、平成 8 年大蔵省告示第 50 号第 1 条第 5 項に規定する再保険契約に係る未償却出再手数料の増加額 1,620 百万円を含んでいます。
再保険料には、平成 8 年大蔵省告示第 50 号第 1 条第 5 項に規定する再保険契約に係る未償却出再手数料の減少額 247 百万円を含んでいます。
8. 金額は記載単位未満を切り捨てて表示しています。

(中間株主資本等変動計算書の注記)

1. 発行済株式の種類および総数に関する事項

(単位：千株)

	当事業年度期首 株式数	当中間会計期間 増加株式数	当中間会計期間 減少株式数	当中間会計期間末 株式数
発行済株式				
普通株式	1,600	—	—	1,600
合計	1,600	—	—	1,600

2. 金額は記載単位未満を切り捨てて表示しています。

5. 資産運用関係（一般勘定）

利息及び配当金等収入

(単位：百万円)

区分	前中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)	比較増減
	収入金額	収入金額	収入金額
預貯金	3	15	11
コールローン	-	-	-
買現先勘定	-	-	-
債券貸借取引支払保証金	-	-	-
買入金銭債権	6	1,467	1,461
有価証券	54,253	39,714	△ 14,538
公社債	40,334	27,310	△ 13,023
株式	1	-	△ 1
外国証券	13,917	12,404	△ 1,513
その他の証券	-	-	-
貸付金	1,415	1,467	51
土地・建物	-	-	-
合計	55,678	42,664	△ 13,013

有価証券売却損益・評価損

(単位：百万円)

区分	前中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)		当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)		比較増減	
	売却損益	評価損	売却損益	評価損	売却損益	評価損
公社債	△ 35,049	-	△ 33,421	-	1,627	-
株式	-	-	5	-	5	-
外国証券	224	-	△ 8	-	△ 232	-
その他の証券	-	-	-	-	-	-
合計	△ 34,825	-	△ 33,424	-	1,401	-

有価証券の時価情報（売買目的有価証券以外の有価証券）

(単位：百万円)

区分	前事業年度末 (2025年3月31日)					当中間会計期間末 (2025年9月30日)				
	帳簿価額	時価	差損益			帳簿価額	時価	差損益		
			差益	差損				差益	差損	
満期保有目的の債券	2,895,325	2,304,101	△ 591,223	13,085	△ 604,309	2,890,809	2,169,847	△ 720,961	8,328	△ 729,290
責任準備金対応債券	2,030,618	1,313,278	△ 717,339	468	△ 717,808	1,956,958	1,187,893	△ 769,064	-	△ 769,064
その他有価証券	1,767,146	1,852,051	84,905	107,994	△ 23,088	1,836,990	1,875,534	38,543	72,793	△ 34,250
公社債	1,432,330	1,456,162	23,831	38,678	△ 14,846	748,167	723,771	△ 24,396	1,241	△ 25,637
株式	9	52	42	42	-	2	44	42	42	-
外国証券	329,457	390,505	61,047	69,267	△ 8,220	336,934	399,781	62,846	71,452	△ 8,605
公社債	42,532	34,312	△ 8,220	-	△ 8,220	44,576	35,971	△ 8,605	-	△ 8,605
株式等	286,924	356,192	69,267	69,267	-	292,357	363,810	71,452	71,452	-
買入金銭債権	5,348	5,331	△ 17	5	△ 22	751,885	751,936	50	57	△ 6
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	6,693,091	5,469,432	△ 1,223,658	121,547	△ 1,345,206	6,684,758	5,233,275	△ 1,451,482	81,122	△ 1,532,605
公社債	6,345,958	5,065,027	△ 1,280,931	52,232	△ 1,333,163	5,583,618	4,073,992	△ 1,509,626	9,570	△ 1,519,197
株式	9	52	42	42	-	2	44	42	42	-
外国証券	341,773	399,021	57,247	69,267	△ 12,020	349,250	407,301	58,051	71,452	△ 13,401
公社債	54,848	42,828	△ 12,020	-	△ 12,020	56,892	43,491	△ 13,401	-	△ 13,401
株式等	286,924	356,192	69,267	69,267	-	292,357	363,810	71,452	71,452	-
買入金銭債権	5,348	5,331	△ 17	5	△ 22	751,885	751,936	50	57	△ 6
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) 市場価格のない株式等および組合出資金等は、上表に含めていません。

- ・市場価格のない株式等および組合出資金等の帳簿価額は以下のとおりです。

(単位:百万円)

区分	前事業年度末 (2025年3月31日)		当中間会計期間末 (2025年9月30日)	
	帳簿価額	帳簿価額	帳簿価額	帳簿価額
子会社・関連会社株式	118,747		113,183	
その他有価証券	21,510		22,366	
国内株式	62		62	
外国株式	-		-	
その他	21,448		22,303	
合計	140,258		135,549	

(参考) 有価証券残存期間別残高

(単位:百万円)

区分	当中間会計期間末 (2025年9月30日)						
	1年以下 3年以下	1年超 5年以下	3年超 7年以下	5年超 10年以下	7年超 10年以下	10年超 (期間の定めのないものを含む)	合計
国債	398,393	68,305	128,726	124,298	519,416	3,802,613	5,041,754
地方債	-	-	-	-	-	5,609	5,609
社債	-	-	-	-	-	511,858	511,858
株式						122	122
外国証券	1,881	2,627	16,727	12,143	2,754	517,029	553,164
公社債	1,881	2,627	1,826	1,597	301	40,051	48,287
株式等	-	-	14,901	10,545	2,452	476,978	504,877
買入金銭債権	725,540	-	-	4,549	21,846	-	751,936
その他	-	-	-	-	-	-	-
合計	1,125,816	70,932	145,454	140,991	544,017	4,837,234	6,864,447

デリバティブ取引の時価情報

金利関連

(単位：百万円)

区分	種類	前事業年度末 (2025年3月31日)			当中間会計期間末 (2025年9月30日)				
		契約額等		時価	差損益	契約額等			
		うち1年超				うち1年超			
店頭	金利スワップ取引 固定金利受取／変動金利支払 固定金利支払／変動金利受取	411,300 605,900	411,300 605,900	△ 8,921 16,469	△ 8,921 16,469	411,300 824,500	411,300 824,500	△ 33,247 61,712	△ 33,247 61,712
	合 計				7,547			28,465	

(単位：百万円)

区分	種類	前事業年度末 (2025年3月31日)			当事業年度末 (2025年9月30日)			
		契約額等		時価	差損益	契約額等		時価
		うち1年超				うち1年超		
店頭	金利スワップション取引 賃建 固定金利支払／変動金利受取	1,600 (16)	1,600 (16)	26	10	1,600 (41)	1,600 (41)	34 △ 7
	合 計				10			△ 7

(注) 1. 金利スワップション取引については、()で契約時のオプション料を示しております。

2. 差損益欄には、オプション料と時価との差額を記載しております。

(参考) 金利スワップ契約の残存期間別構成

(単位：百万円、%)

区分	契約額等	当中間会計期間末 (2025年9月30日)						
		1年以下 3年以下	1年超 5年以下	3年超 7年以下	5年超 7年以下	7年超 10年以下	10年超	合計
受取固定／支払変動スワップ想定元本	-	125,000	-	5,000	-	-	281,300	411,300
平均受取固定金利	-	1.22	-	2.15	-	-	1.66	1.53
平均支払変動金利	-	0.53	-	0.53	-	-	0.49	0.50
受取変動／支払固定スワップ想定元本	-	132,000	5,000	-	-	-	687,500	824,500
平均受取変動金利	-	0.53	0.53	-	-	-	0.45	0.47
平均支払固定金利	-	△ 0.12	2.13	-	-	-	1.92	1.59
合 計	-	257,000	5,000	5,000	-	-	968,800	1,235,800

(注) 平均支払変動金利および平均受取変動金利については、当中間会計期間末までに金利計算期間が開始されたスワップ契約について表示しております。

通貨関連

(単位：百万円)

区分	種類	前事業年度末 (2025年3月31日)			当中間会計期間末 (2025年9月30日)			
		契約額等		時価	差損益	契約額等		時価
		うち1年超				うち1年超		
店頭	為替予約取引 売建 米ドル ユーロ 英ポンド	536,996 63,928 853	- - -	5,220 △ 938 △ 24	5,220 △ 938 △ 24	511,422 70,828 911	- - -	△ 12,827 △ 1,127 2
賃建 米ドル ユーロ	6	-	△ 0	△ 0	2,624	-	17	17
通貨スワップ取引 受取円貨支払外貨 米ドル ユーロ(注)	- 12,316	- 12,316	- -	- -	115	-	△ 0	△ 0
合 計					4,257			△ 14,376

(注) 振当処理を適用している通貨スワップ取引については、ヘッジ対象の有価証券（満期保有目的の債券）と一体として処理しているため、その時価は当該有価証券の時価に含めております。

6. ソルベンシー・マージン比率

(単位：百万円)

項目	前事業年度末 (2025年3月31日)	当中間会計期間末 (2025年9月30日)
ソルベンシー・マージン総額 (A)	559,668	586,470
資本金等	188,766	273,686
価格変動準備金	24,153	26,034
危険準備金	55,918	55,967
一般貸倒引当金	676	746
(その他有価証券評価差額金(税効果控除前)・繰延ヘッジ損益(税効果控除前)) × 90% (マイナスの場合100%)	△ 4,658	△ 50,742
土地の含み損益 × 85% (マイナスの場合100%)	-	-
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	274,971	261,497
負債性資本調達手段等	-	-
全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額	△ 10,791	-
控除項目	-	-
その他	30,631	19,281
リスクの合計額 (B) $\sqrt{(R_1 + R_8)^2 + (R_2 + R_3 + R_7)^2} + R_4$	133,545	132,979
保険リスク相当額 (R ₁)	16,043	15,681
第三分野保険の保険リスク相当額 (R ₈)	7,132	7,115
予定利率リスク相当額 (R ₂)	5,027	4,944
最低保証リスク相当額 (R ₇)	2,033	1,982
資産運用リスク相当額 (R ₃)	121,377	121,022
経営管理リスク相当額 (R ₄)	3,032	3,014
ソルベンシー・マージン比率 [(A)/{(B) × 1/2}] × 100 (C)	838.1%	882.0%

(注) 1. 上記は、保険業法施行規則第86条、第87条および平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しています。

2. 最低保証リスク相当額は、標準的方式により算出しています。

(参考) 実質資産負債差額

(単位：百万円)

項目	前事業年度末 (2025年3月31日)	当中間会計期間末 (2025年9月30日)
資産の部に計上されるべき金額の合計額 (1)	6,515,742	6,252,657
負債の部に計上されるべき金額の合計額 (2)	7,330,787	7,242,918
を基礎として計算した金額		
実質資産負債差額 A (1) - (2) = (3)	△ 815,045	△ 990,260
満期保有目的の債券・責任準備金対応 (4)	△ 1,308,563	△ 1,490,026
債券の含み損益		
実質資産負債差額 B (3) - (4) = (5)	493,518	499,765

(注) 実質資産負債差額Aは、保険業法第132条第2項に規定する区分等を定める命令第3条および平成11年金融監督庁・大蔵省告示第2号の規定に基づき算出しています。実質資産負債差額Bは、保険会社向けの総合的な監督指針II-2-2-6に基づき算出しており、当社は同監督指針II-2-2-6等の記載に基づく保険金等の支払に備えた流動性資産を確保しています。

7. 特別勘定の状況

(1) 特別勘定資産残高の状況

(単位：億円)

区分	前事業年度末 (2025年3月31日)	当中間会計期間末 (2025年9月30日)
個人変額保険	3,244	3,990
個人変額年金保険	326	344
団体年金保険	-	-
特別勘定計	3,571	4,334

(2) 保有契約高

・個人変額保険

(単位：千件、億円)

区分	前事業年度末 (2025年3月31日)		当中間会計期間末 (2025年9月30日)	
	件数	金額	件数	金額
変額保険（有期型）	342	32,774	361	34,472
変額保険（終身型）	24	2,361	24	2,525
合計	366	35,136	385	36,998

・個人変額年金保険

(単位：千件、億円)

区分	前事業年度末 (2025年3月31日)		当中間会計期間末 (2025年9月30日)	
	件数	金額	件数	金額
個人変額年金保険	2	324	2	342

8. 保険会社及びその子会社等の状況

当社は子会社を2社有していますが、その資産、売上高等からみて、当企業集団の財政状態と経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいことから、当社では連結財務諸表を作成していません。